

平成29年度 宇都宮市立緑が丘小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

- (1) 基本目標
実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
「自分をつくり自立する子（生きる力）」
- ・友達をつくり力を合わせる子（社会性）
 - ・豊かな心をつくる子（感受性・主体性）
 - ・丈夫な体をつくる子（意欲・気力・体力）
 - ・確かな考えをつくる子（課題解決力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「地域社会に根ざしたこれからの学校づくり～家庭・地域社会との相互連携による、生きる力をはぐくむ教育の推進～」

目標や課題の明確化・重点化・共有化を図り、一貫性のある教育活動を展開して、生きる力をはぐくむ教育を推進するとともに、適材適所の役割分担と課題解決への取り組み体制の工夫により、校内体制の活性化、強化を図り、教育目標の確実な具現化に努める。また、地域協議会や地域学校園を中心として家庭や地域社会との相互連携による教育をさらに推進して取組の効果を高めながら、児童の教育を通して地域社会にも貢献する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 知・徳・体のバランスを大切にし、確かな学力、豊かな人間性、健やかな身体など、「生きる力」をはぐくむ教育を推進する。
- (2) 教育目標の達成を目指し、一貫性のある教育活動を展開する。
・目標及び課題の明確化、重点化、共有化、評価の工夫
- (3) 児童の実態及び学校や地域社会の実情等を踏まえ、指導の重点化を図った成果の見える取組を展開する。
・「頑張る学校プロジェクト」予算の効果的な活用
- (4) 教職員一人ひとりが目標を共有し、学校経営への参画意識を高めて、それぞれの立場から課題解決に向けて主体的に考え、実践する組織づくりに努める。
・教職員一人一人の長所を生かす校内体制の工夫と教職員評価の効果的な実施
- (5) 組織体制の強化を図り、課題や問題、事故等に対しては、組織的な対応に努める。
・校務運営委員会、学年会、児童指導対策委員会、特別支援教育委員会等の充実
- (6) 小中一貫教育地域学校園の実施に伴う組織間の連携強化

【陽南地域学校園教育ビジョン】

地域に根ざした豊かな心を育む小中一貫教育 ～子どもの自主的な活動を通して～

- (7) 開かれた学校づくりを推進し、共通の課題意識に基づく家庭・地域社会との連携による教育を推進する。
・活性化された魅力ある学校づくり地域協議会との連携強化
・学校支援ボランティアの積極的な導入
・各種たより、HP 等による積極的な情報発信・授業参観・オープンスクールの改善

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学校運営】

- ・「明るくあいさつ・楽しい学校」をスローガンに家庭・地域と連携し、人と関わる楽しさや学ぶ楽しさ等を実感できる学校づくりに教職員一人一人が主体的に取り組む。

【学習指導】

「学び合い、ともに育つ」～学び合い、自立を目指す児童の育成～

- ・習熟度別学習やコース別学習、グループ学習等を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・自分の考えをはっきりと示し、話し合いなどの集団の学びを通して思考を高める。
・話し合い活動を充実させ、学び合う力を高める高めることに重点を置いて日常の学習活動の充実に努める。

【児童生徒指導】

- ・集団生活における規範意識の育成と、思いやりの心をもって協力できる児童の育成に努める。
・児童の特性やよさを認め、励まし、自己肯定感や有用感を高めるとともに、たくましさを育成する。

【健康（保健・安全・食育）・体力】

- ・自分の心や体の様子に関心を持ち、進んで体力向上に努め、健康・安全に生活しようとする児童を育成する。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。
 ※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A1 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケートの「学校全体に活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上	① 児童の学習意欲を高める授業を工夫する。(学習課題設定の工夫による一人一人に学びのある授業の実践・人材活用等の工夫) ② 学級会活動や縦割り班活動、みどりタイム等で、 <u>話し合い活動を意図的に取り入れ</u> 、児童の主体的な活動を推進し、豊かな人間関係を構築する力を育てる。	B	【達成状況】 教職員 100%、保護者 94.3%、地域住民 100%、児童 93.2%の回答で、目標を上回っている。 【次年度の方針】 継続して児童の学習意欲を高める学習課題を設定し、児童の主体的な活動を取り入れた学級活動や縦割り班活動、みどりタイムの充実を図り、豊かな人間関係を構築していく。
	A2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は協力し、児童のよいところを認め、教えるべきことを熱心に指導している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上	① <u>個々の児童の学習指導上の課題を常に意識し、ねらいを明確にして学習の見通しを持たせた授業の展開に努める。</u> ② 自ら進んで望ましい行動がとれるような生活面の指導を、全職員が <u>児童指導対策委員会などを通して共通理解をした上で、組織的に</u> 行う。	B	【達成状況】 教職員 100%、保護者 93%、地域住民 96.7%、児童 98.1%の回答で、目標を上回っている。 【次年度の方針】 学習指導上や児童指導上の課題を常に意識し、授業研究会や児童指導対策委員会などを通して指導内容を共通理解し、児童理解を深めながら、組織的に指導にあたる。 学習指導については、年度当初、「みどりの学びスタートパック」を用い、学習の基本を周知し共通理解を図る。
	A3 児童は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 全体アンケートの「児童は、授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上	① 基本的な生活習慣を身に付けようとする意識を高めるために、「みどりの子のやくそく」を各学級に掲示し、重点目標について繰り返し指導する。 ② <u>生活当番(教員)が児童の実態から問題点を見出し、改善に向けた生活目標を設定して全職員で重点的に指導に当たる。</u>		【達成状況】 教職員 100%・保護者 93.5%・地域住民 100%・児童 85.7%の回答で、目標を上回っている。 【次年度の方針】 引き続き生活当番の先生が児童の実態から目標を作り、朝会等で伝えていく。
	A4 教職員は、分かる授業や児童にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケートの「教職員は、分かりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導をしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上	① 授業研究に積極的に取り組み、児童一人一人が意欲を持って取り組める <u>分かる授業の工夫</u> に心がけ、学力向上に努める。 ② スキルタイム(朝の学習)を充実させるとともに、 <u>家庭学習について「家庭学習のヒント集」(陽南地域学校園)を活用し、具体的な指導・支援を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。</u> ③ T・Tによる学習や少人数による習熟度別学習を充実させるとともに、特別支援教育の考え方を生かした指導を行うことにより、個に応じた指導の充実を図る。	B	【達成状況】 教職員 100%、保護者 84.7%、地域住民 88.5%・児童 96.8%の回答で、目標を上回っている。 【次年度の方針】 教員は、学年の担任同士で協力し合いながら授業の進め方等の研究をしたり、児童の伸びやつまづきを話し合ったりしてきた。次年度は学習の定着を図るために、家庭学習への指導の充実を図るとともに、さらに授業研究を重ね、わかる授業のための指導の工夫に取り組む。 また、多様な児童の能力に対応する TT や少人数指導による習熟度別学習、朝のスキルタイムをさらに充実させ、個に応じた指導の充実を目指す。

<p>A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる。」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。</p> <p>② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教員で認識し、<u>児童の主体的な取組（いじめ撲滅集会）も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。</u></p>	<p>【達成状況】 教職員 100%・保護者 72.5%・地域住民 82.1%・児童 98.1%の回答で、保護者のみ目標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 いじめの集会での講話や標語づくりを通して啓発を行い、いじめの未然防止を図る。 おはなしタイムで児童からの話をしっかり聞き、いじめの早期発見・早期解決に取り組む。また、いじめアンケートを年4回行い、早期発見につなげる。 「いじめの防止基本方針」に基づき、全校体制で取り組むようにする。</p>
<p>A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校の日課、授業、行事などは、適切に実施されている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 全ての学校行事について、全体アンケートや学校点検の結果をもとに、担当者を中心に改善策を策定する。</p> <p>② 週案の記録と反省、各行事実施後の評価などにより、具体的な改善策を明確にして次回に生かす。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%・保護者 96%・地域住民 96.8%・児童 92.6%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 児童と向き合う時間の確保のため、行事の精選を図るとともに、今年度の反省を生かして活動を実施する。実施後は改善策を速やかに検討し、次年度の計画に生かす。</p>
<p>A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われ、開かれた学校づくりが進められている。</p> <p>【数値指標】 教職員・地域住民・保護者アンケートの「学校は、学校便りや学校公開などで、積極的に情報を発信・提供している」 ⇒教職員・地域住民・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① HPのリニューアルに伴い、児童の様子を情報提供するページの更新に努める。</p> <p>② 5月と12月に学校公開日を受け、自治会への回覧文書やHP等で広く広報するなどして、より多くの人々に学校の教育活動を理解してもらうよう努める。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%・保護者 94.1%・地域住民 96.9%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 今年度の方向性を維持するとともに、HPでの適時性のある情報発信など充実に努め、保護者や地域の要望に応える。</p>
<p>A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った地域の学校づくりが推進されている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、家庭、地域、企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実に図っている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習を充実させ、多くの教科や活動で学習支援ボランティアの有効な活用を図る。</p> <p>② 緑が丘小地域協議会に学校の情報を提供するとともに、地域協議会の活性化と活動の充実に図る。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%・保護者 93.3%・地域住民 90.3%・児童 89.8%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 地域資源や人材のデータベースを作成し、より一層のニーズを検証しながら、地域の教育力を生かした活動が実施できるようにする。あいさつ運動は、より一層まちづくり協議会と連携し、地域協議会の活動として継続実施していく。</p>
<p>A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、清掃が行き届き、荷物や備品などが整理整頓され学習しやすい環境である」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 児童の発達の段階にあわせた清掃指導の充実と、学校支援ボランティアやPTAの奉仕活動などを活用した校内環境整備に努める。</p> <p>② 計画的な環境整備を継続し、クラブ活動や委員会活動を知らせるコーナーをさらに発展させ、児童の主体的な活動を支援する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 89.3%・保護者 91.6%・地域住民 93.5%・児童 88%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教材・教具の整理整頓に心がけながら、有効な使い方などOJTも含めた実践的な研修の場を設ける。 修繕が必要な個所は、関係機関と連携をとりながら、計画的に修繕を行う。</p>

教育活動の状況	<p>A10 学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。</p> <p>② 小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗り入れ授業の内容を全体に周知し、共通理解を図る。</p> <p>③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 89.3%・保護者 84.2%・地域住民 77.8%・児童 86.6%の回答で、地域住民のみ目標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校だよりや学年だより等で、保護者へ実践状況等をお知らせするとともに、HPに小中一貫教育のコーナーを設けるなどして、実践の様子を広く啓発する。</p>
		<p>B1 危機管理対策等を充実させる。</p> <p>【数値指標】 保護者アンケートの「学校は、避難訓練、引き渡し訓練や登下校の安全対策を計画的に行い、危機管理対策を充実させている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 登下校の児童の安全については、地域の実情に応じてボランティアの協力を依頼する。</p> <p>② 災害時の児童引き渡しや竜巻の時の行動の仕方を理解させ、訓練で実践化を図る。</p> <p>③ 不審者侵入対策の避難訓練の工夫をする。</p>	B
	<p>A11 児童は、進んであいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 代表委員会の計画であいさつ強化週間を実施したり、あいさつ標語を掲示したりするなど、児童の主体的な活動によるあいさつの励行に努める。</p> <p>② <u>陽南中学校地域学校園や、緑が丘小学校魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図り、保護者、地域と連携協力したあいさつ運動を実施する。</u></p>	B	<p>【達成状況】 教職員 100%・保護者 74.4%・地域住民 81.3%・児童 94.9%の回答で、保護者のみ、目標を下回った。</p> <p>【次年度の方針】 児童会が主体となったあいさつ運動を継続して計画・実施していき、あいさつの習慣化を図る。また、「緑が丘あいさつ運動」として地域協議会を中心に地域や保護者と連携し、地域をあげてあいさつ運動を活性化し、あいさつの響く環境を作る。</p>
	<p>A12 児童は、正しい言葉づかいをしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 道徳の時間において、正しい言葉づかいや思いやりの心を育む道徳資料を活用し、実践力を身に付けさせる。</p> <p>② 改まった場での「<u>です・ます</u>」、<u>友達へ「さん」付けで呼び合う指導</u>を、徹底する。</p>	B	<p>【達成状況】 教職員 89.3%・保護者 75.6%・地域住民 78.8%・児童 81.6%の回答で、教職員と児童の目標は達成している。</p> <p>【次年度の方針】 児童は言葉遣いに気を付けて生活しようとしている。今後も学校生活全般で、「です・ます」「さん」付けを徹底する。教職員自らが言語活動の鑑になるように努力する。</p>

<p>B2 児童は、読書の習慣が身につけている。</p> <p>【数値目標】 児童・保護者・教職員のアンケートの「児童は読書の習慣が身につけ、読書が好きである。」 ⇒児童・保護者・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 全校読書や読書週間、ボランティア等による読み聞かせや家庭での読書の奨励を全校体制で実施する。</p> <p>② 学年に応じた必読図書を紹介し、家庭での読書を奨励する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%、保護者 94.6%、地域住民 96.6%、児童 86.9%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 読み聞かせや図書ボランティアの協力で、読書に親しむ環境が整えられている。必読図書を新たに選定し、読破者の数も増えている。本の配置や奨励の仕方を工夫し、どの学年も読破者の数が増えるよう具体策を講じる。</p>
<p>A13 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「平日の授業後や休日などに積極的に運動している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 運動や健康に目当てをもって取り組めるよう、各種検定表（長期休みには運動実践集）を作成したり、縄跳び・逆上がり・水泳等で補助具等を活用させたりして意欲の向上や技能の向上を図る。</p> <p>② 体育委員会による長なわ大会・ドッジボール大会など児童による運動競技大会を計画し実施する。</p>	<p>【達成状況】 教職員 96.4%、児童 91.6%と目標を上回ったが、保護者 69.3%、地域住民 53.6%の回答で、目標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 水泳、鉄棒、なわとびの各種検定表を継続して使用し、技能向上を図る。長期休み前には運動実践集を各家庭に配付し、保護者と一緒に取り組めるようにする。</p> <p>また、学校だより等で体力向上に関する取組を開示していく。今年度も水泳ボランティアの有効活用ができたので、さらに継続したい。</p>
<p>健康・体力</p> <p>A14 児童は、栄養のバランスを考えて食事をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「自分の子どもは、好き嫌いなく食事をしている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 各学級での実態に応じた食育指導、及び給食だより・食育便りなどを通して、児童が好き嫌いを少なくする努力をするよう、家庭と連携を図る。</p> <p>② 「何でも食べよう大作戦」や、食生活に関するアンケートを実施し、結果を保護者に知らせ、家庭での協力を求める。</p> <p>③ 地域学校園内で、同一の日に「お弁当の日」を実施し、9年間を通して食育ファイルに記録する。</p>	<p>【達成状況】 児童 80.1%と上回ったが、教職員 78.6%、保護者 72.3%の回答で、目標を下回っている。</p> <p>【次年度の方針】 児童の肯定的回答は 80%を超えているが、「無理しなくてもよい」ような風潮が好き嫌いにつながっているのではないかと懸念している。学校では給食をしっかり食べることをねらいとした取り組みが行われているので、食育だよりの保護者向けの欄を増やしたり、栄養バランスの大切さの啓発を図ったりして、子どもを通して保護者に啓発できるようにする。</p>
<p>B3 自己の体の健康に関心を持ち、安全な生活をしようとする。</p> <p>【数値目標】 児童アンケートの「基本的な生活習慣を身につけ、健康的な生活をしようとしている。」 ⇒教職員・保護者・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① <u>給食時や清掃時の身支度指導、歯みがきや保健委員会の衛生検査など、学校生活の中の様々な保健指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ、衛生的・健康的な生活ができるよう指導する。</u></p>	<p>【達成状況】 教職員 100%、保護者 89.7%、地域住民 92.6%、児童 93%の回答で、いずれも目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学校の実態に応じた保健指導をしたり、保健だよりに配布したりする。</p> <p>給食時や清掃時の身支度や歯磨き指導、保健委員会の児童による衛生検査や集会活動など啓発活動を今後も継続して取り組んでいく。</p>

	<p>A15 児童は、進んで学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「児童は授業中に進んで話し合いわかりやすく発表するなど積極的に学習している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 基本的な学習習慣を定着させるために「家庭学習のヒント集」を活用し、学年に応じた家庭学習の指導を継続する。</p> <p>② 特別活動の話し合い活動の実践を他の教科・領域にも生かして、<u>主体的に話し合い活動を実践する力の育成を図る。</u></p>	<p>【達成状況】 教職員 100%，保護者 84.7%，地域住民 79.2%，児童 90.1%の回答で、ほぼ目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教職員と児童は 90%を上回り成果を上げることができた。話し合い活動については、授業の中でペアやグループでの話し合いを設定し、全体で分かち合えるようにする。話し合いの場を意図的に設け、自分の考えを説明できるようにする。</p>
学 習	<p>A16 児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケートの「授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している」 ⇒全体の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 朝のスキルタイムに<u>T・Tを取り入れて全校体制で実施し</u>、漢字や基礎的な言語事項や計算練習を繰り返し学習したり、個に応じた学習をしたりする機会を確保する。</p> <p>② 先生の話や友達の意見をよく聞き、自分の考えをはっきりと持ったり話したりすることができるよう、「基本的な学習態度」を年度当初に共通認識し、指導を徹底する。「みどりの学びスタートパック」の活用。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%，保護者 89.1%，地域住民 92%，児童 86.3%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 朝の学習の時間に、チームティーチングを取り入れてスキルタイムを実施し、基礎的・基本的な学力に定着を図ってきた。今後も漢字や計算の定着をさらに高めるため、漢字や計算プリント学習を実施する。 先生や友達の話をよく聞き、自分の考えをしっかりと表現できるよう、「みどりの学びスタートパック」を活用して学年に応じた「基本的学習態度」を年度当初に共通理解し、同一歩調で指導する。また、学年会等で日々の学習態度を確認して継続指導する。</p>
	<p>B4 児童が学び方を身に付け、生き生きと学習に取り組めるよう授業を工夫し確かな学びを培っている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケートの「授業にいろいろな工夫があって楽しい。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 教師全員が授業を公開し、研究会を行うことで、授業力向上に努める。</p> <p>② <u>児童の変容を見取る視点での授業参観を実施し</u>、児童や教師の振り返りを効果的に活用しながら、一人一人が主体的に思考・判断し、表現する力をつけるため、「学び合う」活動を取り入れた授業研究に取り組む。</p>	<p>【達成状況】 教職員 100%，児童 89.4%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 教科だけでなく道徳でも学び合いを進めてきたが、今後もどの教科・領域主体的に学び合えるように指導していく。 次年度も継続して教員同士で授業を見せ合い、授業を振り返り、児童の伸びやつまづきを話し合う。一人一人が主体的に思考・判断し表現する力をつけるため「学び合う」活動を取り入れた授業を推進する。</p>
本 校 の 特 色 ・ 課 題 等	<p>B5 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。</p> <p>【数値目標】 児童アンケートの「縦割り活動で、他の学年の友達と協力して進んで活動している。」 ⇒教職員・児童の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動が<u>より児童の主体的な活動となるよう工夫する。</u></p> <p>② 委員会活動や学級活動において子どもたちによる自治的な活動を実践する。子どもたちの良さを生かしてみんなに認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。</p>	<p>B【達成状況】 教職員 100%，児童 93.9%の回答で、目標を上回っている。</p> <p>【次年度の方針】 学級活動や係活動、代表委員のあいさつ運動や体育委員会の講習会や大会などでは、児童による主体的な活動が実践できた。 次年度も、人と人との関わり合いを通して、豊かな人間性を育てていきたい。また、学校全体の教育活動の中で、自己肯定感を感じられる活躍の場を意図的に設定していきたい。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 1 児童は総ての評価指標を達成した。特に昨年度の課題であった「A3 きまりやマナー」については8.9%増え、「A12 時と場に応じた言葉づかい」も5.2%増えた。当たり前前を当たり前にするの大切さを話し、できたことを大いに褒めるなど、自己有用感を高める指導や支援の成果と考えられる。加えて、本年度は陽南地域学校園5校が道徳の研究指定校になり、全教員が取り組んだことも児童の心の成長の一助になったと考えられる。今後も、規範意識の育成と言語環境の改善を図り、児童が安心して居がいを感じて学校生活が送れるよう努めていく。
- 2 地域の教育力を活用した学習や活動の改善に努め、多くの方々の協力を得た。水泳ボランティアの活躍で、安全面の指導に加え、水を怖がる児童への丁寧な指導ができた。樹木の剪定など環境整備への協力もいただいた。家庭科や総合などの学習活動や心の教育、環境整備等でボランティアの協力が定着し、個別指導が充実した。
- 3 「あいさつ」については、児童会活動、陽南中学校との連携に加え、地域協議会やまちづくり協議会との共催の活動も実施できた。保護者・地域の肯定的回答割合が減ったのが残念であったが、教職員が9.7%、児童が4.2%増えたのは校内での活動が充実していたからだと考えられる。
- 4 学校課題に関する研究・研修については、「学びあい、ともに育つ～子どもが主体的に学ぶ授業を目指して～」をテーマに一人一授業を実施した。今年度は道徳が中心であったが、地域学校園からの参会者も得て、有意義な研究会が実施できた。今後も授業の中にペアやグループなど話し合い活動の場を設定し、全体で分かち合うなど言語活動の充実を図り、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせたい。
- 5 教職員や児童の肯定的回答割合が増えたのに対し、保護者や地域住民の割合がなかなか増えないのは、啓発活動が十分で無いためだと考えられる。学校だよりやホームページ、さらに学年だより等で、学校の指導の様子や児童の活動の様子を広く、情報提供していきたい。

6 学校関係者評価

「継続は力なり」である。諸活動を積み重ねて実施し、効果を上げていく。

- 1 児童のあいさつがよくなった。地域と連携した取組の効果も大きい。地域の方からも進んであいさつしてもらえるように、啓発していくことも必要である。
- 2 学校支援ボランティアを広く募集・拡充し、地域と連携した教育活動の充実が図られている。学校は地域に情報を発信し、地域と共に歩む姿勢を示して評価出来る。プラス思考での行事のマナー化もある程度必要であろう。主催者側が大変だと思ふことを楽しみに思えるような活動を提供していきたい。参加率が低いので、児童への周知をお願いしたい。
- 3 学校のきまり（例えば帰宅時刻）を知らない保護者もいる。意識の低い保護者への啓発も必要である。
- 4 食育については、好き嫌いに関して課題が見られる。学校給食だけではなかなか改善できない。家庭への食育が必要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

本年度の結果を踏まえ、課題を明確にして改善を図ることとする。

- 1 学校課題の研究をさらに充実させ、「わかる授業」やきめ細かな指導を継続する。
 - ・基本的な学習態度の育成・定着については、「みどりの学びスタートパック」を年度当初に確認し合い、徹底する。
 - ・基礎基本の徹底のため、木曜日のスキルタイムの改善・充実（取り出し指導による個に応じた指導）を図る。
 - ・少人数、習熟度別指導の充実のため、算数におけるティームティーチングと習熟度別学習を工夫する。
- 言語活動の充実のため、すべての教科で話し合い活動の重視。ペア学習、小グループ、全体。
- 家庭学習の充実のため、低学年20分、中学年40分、高学年1時間を推進する。
- 言葉遣いやあいさつなど基本的な生活習慣については、中学校や保護者・地域と連携しながら、日々の生活の中で指導を徹底していく。
 - ・時と場に応じ相手の気持ちを考えた言葉遣いなど、道徳や学級活動の時間を中心に指導。
 - ・地域ぐるみのあいさつ運動の実施（中学校・地域協議会・町づくり協議会）
 - ・全校体制での啓発活動の実施（児童会活動で「あいさつの達人」の認定、学校長から「あいさつ金賞」の表彰など）
- お弁当の日の実施や「何でも食べよう大作戦」の実施により、食への関心の高まりが見られる。引き続き小中の連携を図りながらマナーや栄養に関する内容に重点を置いた指導を推進する。
 - ・地域学校園の食育部会で計画する共通の取組の実施（お弁当レシピコンテストなど）
 - ・給食だより（児童）、食育だより（保護者）による啓発。

- 4 頑張る学校プロジェクトでの活動内容を見直し、縦割り班活動や児童会活動に加えてキャリア教育の充実を図り、児童の主体性や人間関係形成力を育む。
 - ・縦割り班活動をとおしたリーダーの育成と集団の一員としての資質の向上。
 - ・各種委員会主催の集会活動の充実。
 - ・地域の様々なプロを講師とした生き方を学ぶ授業の実施（6年）。
- 5 地域のボランティアの協力を得ながら児童の安全を守りつつ、子どもの危険予知能力や災害時の危機回避能力の育成に努める。
 - ・見守りボランティア、児童安全ボランティアとの連携・協力。
 - ・外部機関との連携による安全教室の実施。
- 6 思いやりの心や規範意識の醸成など「心の教育」は、道徳の時間を要してすべての教育活動において全職員で指導に当たるだけでなく、児童の主体的な活動の中で自らの意識を高める。
 - ・「みどりの子のやくそく」の活用。
 - ・「いじめゼロ集会」等、児童の主体的な活動による啓発。
 - ・人権週間などをとおした人権意識の向上。
 - ・自己有用感を高める教職員の言葉かけの励行。
 - ・一人一人が居がいを感じ、自己肯定感が高まる学級経営の推進。
 - ・児童指導対策委員会や不登校対策委員会の充実と、課題への組織的対応力の強化。
- 7 開かれた学校づくりを進めるため、通常の授業参観・学級懇談をはじめとして、土曜授業やオープンスクールの持ち方やホームページでの情報提供を工夫し、学校教育の実際をより多くの方に周知する体制をつくる。
 - ・土曜授業とPTA行事の連携。
 - ・ホームページによる日常的な情報発信の改善。
 - ・学習支援ボランティアの更なる掘り起こしと活動の充実。